

氏 名	大 森 修 平
授 与 し た 学 位	博 士
専 攻 分 野 の 名 称	医 学
学 位 授 与 番 号	博甲第 5191 号
学 位 授 与 の 日 付	平成 27 年 6 月 30 日
学 位 授 与 の 要 件	医歯薬学総合研究科機能再生・再建科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学 位 論 文 題 目	Does the introduction of newborn hearing screening improve vocabulary development in hearing-impaired children? A population-based study in Japan (岡山県における新生児聴覚スクリーニングの導入と聴覚障害児の語彙発達)
論 文 審 査 委 員	教授 塚原 宏一 教授 白神 史雄 准教授 吉永 治美

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

岡山県では 2001 年から新生児聴覚スクリーニング(NHS)が導入され、難聴を早期に発見し早期に療育ができるようになった。岡山かなりや学園の 5 歳卒園児 (107 名) を対象に NHS の導入前と導入後の語彙発達の比較を行った。語彙の評価は、理解語彙と產生語彙について行い、理解語彙には絵画語彙発達検査 (PVT) による修正得点を用い、產生語彙には独自の語彙チェック表によって集計した語彙数を用いた。

PVT の修正得点とチェック表による語彙数とは、明らかな相関関係が見られた ($r=0.747$ 、 $p < 0.001$)。また理解語彙の指標である PVT 修正得点および產生語彙の指標である語彙数は、NHS 導入後の方が良好な発達が見られた ($p=0.003$ 、 $p < 0.001$)。NHS 導入により語彙発達が良好となるオッズ比は、理解語彙では 2.63 (95% 信頼区間 : 1.17–5.89)、產生語彙では 4.17 (95% 信頼区間 : 1.69–10.29) であった。

岡山県では新生児聴覚スクリーニング導入により、5 歳の難聴児の理解語彙・產生語彙ともに改善されたと言える。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

新生児聴覚スクリーニング (newborn hearing screening NHS) は聴覚障害を早期に発見し早期に療育を開始する上で有用である。本研究では、NHS の導入が聴覚障害児の言語発達に与える影響について検討された。岡山かなりや学園の 5 歳卒園児 (107 名) を対象に、NHS の導入前 (1998 年～2003 年に卒園した 40 名) と導入後 (2004 年～2011 年に卒園した 67 名) の語彙発達が比較された。語彙の評価は理解語彙、產生語彙について行なわれ、前者には絵画語彙検査による修正得点、後者には独自の語彙チェック表によって集計した語彙数が用いられた。導入後の卒園児では導入前の卒園児と比べて、理解語彙、產生語彙とともに有意に良好な結果が認められた (良好となるオッズ比はそれぞれ約 2 倍、約 4 倍であった)。NHS の導入によりとりわけ語彙発達が大きく遅れるケースが少なくなっていた。本研究は NHS を導入することにより 5 歳の聴覚障害児の言語発達が改善することを示すものであり、価値ある業績である。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。